

スーパーサイエンス特別コースとは

「環境科学」「地球惑星科学」「生命科学工学」およびそれらの関連分野で、国際的に活躍できる優れた人材を育成するための学部レベルの特別コースです。コース特設科目の他、理・工・農学部の専門科目を履修し、最短で3年間で学部課程を終えることが可能です。卒業後は、大学院への進学が期待されています。

スーパーサイエンス特別コースに入るには

次のいずれかのAO入試に合格することが必要です。(平成23年度入試の概要は次のとおりです。)

① AO入試 I

募集人員: 環境科学コース 4人
地球惑星科学コース 3人
生命科学工学コース 4人
出願期間: 平成22年9月6日(月)~10日(金)
出願書類: 志望理由書, 志願者評価書(高校等で作成), 調査書(高校等で作成)等
選考方法: 第1次選抜は書類選考で, 募集人員の2倍程度を合格者とします。
第2次選抜として, 10月2日(土)・3日(日)の2日間で, 「講義を受けてのレポート」, 「実験」, 「面接」を実施します。
合格発表: 平成22年10月21日(木)

② AO入試 II

募集人員: 環境科学コース 2人
地球惑星科学コース 2人
生命科学工学コース 2人
出願期間: 平成22年12月11日(土)~17日(金)
出願書類: 志望理由書, 志願者評価書(高校等で作成), 調査書(高校等で作成)等
選考方法: 大学入試センター試験(5教科7科目), 出願書類, 面接で選考します。
大学入試センター試験の利用科目は次のとおりです。
●国語
●地歴(科目指定なし)または公民(科目指定なし)
●数学(「数学I・数学A」及び「数学II・数学B」)
●理科(「生物I」, 「化学I」, 「物理I」, 「地学I」から2科目)
●外国語(英語)
面接日: 平成23年1月29日(土)
合格発表: 平成23年2月4日(金)

- ◎ 愛媛大学に入学後, 2年次からスーパーサイエンス特別コースに移る制度もあります。
- ◎ スーパーサイエンス特別コースの入試については, 愛媛大学入試課(〒790-8577松山市道後樋又10番13号 電話089-927-9173)へお問い合わせください。
- ◎ 募集要項の請求: 請求する封筒の表にスーパーサイエンス特別コース学生募集要項請求と朱書きし, 390円分の切手を貼った角形2号(33cm×24cm)の返信用封筒(郵便番号・住所・氏名を明記)を上記入試課あてに送付してください。
- ◎ 募集要項はインターネットでもご覧になれます。
<http://www.ehime-u.ac.jp/>から「受験生の方」を選んでください。
- ◎ スーパーサイエンス特別コース公式ホームページもご覧ください。
<http://www.ehime-u.ac.jp/SS/index.html>



環境、地球、生命の謎を探る

文部科学省「理数学生応援プロジェクト」による

愛媛大学スーパーサイエンス特別コースの取り組み

愛媛大学スーパーサイエンス特別コースは 文部科学省の「理数学生応援プロジェクト」^{*}に採択されています。

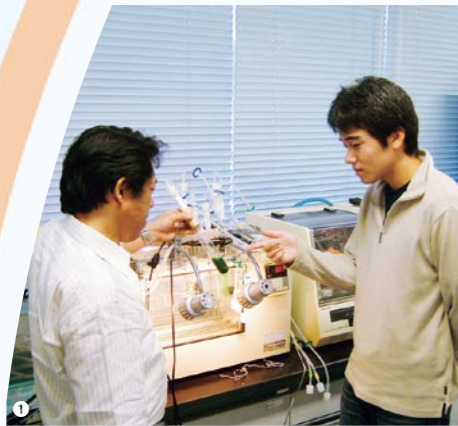
愛媛大学スーパーサイエンス特別コースは、平成 17 年 4 月にスタートしました。これまでに早期卒業(大学の学部課程を最短 3 年で卒業できる制度)を含め、16 人が卒業し、本学の大学院に進学するなどして活躍しています。また、学部生でありながら学会発表を行うなどその成果が明らかになっています。

さらに、平成 20 年度には文部科学省の「理数学生応援プロジェクト」に採択されました。それまでも愛媛大学は独自の取り組みにより、自然科学に強い関心があり研究者を目指す学生を応援してきましたが、この採択により、学生に対する支援がより充実しました。平成 21 年度末には、文部科学省の同プロジェクト企画評価委員会からA「優れた成果が期待できる取り組みであり、計画通り推進すべき」と評価されています。

これまでの取り組みの一部をご紹介します。

研究手法を会得し、問題解決能力を養う。

自律学習プログラム



①実験計画の指導
②日常的なチューターによる指導
③日本学士院賞を受賞した寒川賢治先生との懇談会



1 回生を対象に、各自が自主的に研究テーマを設定して、自由時間に調査、実験等を行う自律学習プログラムを実施しています。学生はこのプログラムを通じて、文献等の調査から始まる研究の手法を会得し、問題解決能力を養います。また、プログラムの一環として、著名な研究者を招いて、学生時代の過ごし方や研究者の心構え等について懇談したり、最先端の研究に関する講演会を開催しています。

海外で生物群や地質を観察する。

オーストラリアでのフィールドワーク

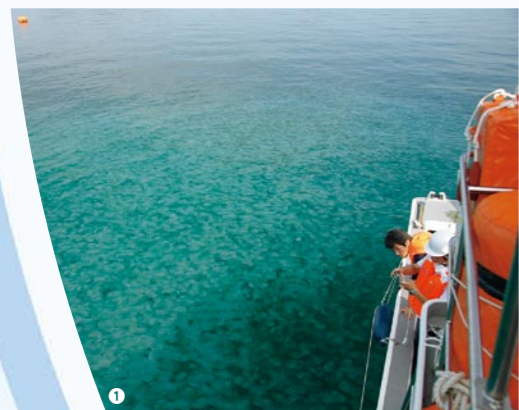


①ケープ・トリビュレーションの海岸
②Black beans の観察 ③マングローブの観察

スーパーサイエンス特別コースでは毎年 1 回生が約 1 カ月間オーストラリアに滞在します。うち、数日は「理数学生応援プロジェクト」として研究施設の訪問やフィールドワークを行っています。平成 21 年度は、クイーンズランド州北部のケープ・トリビュレーションを訪れました。この一帯は、「クイーンズランドの湿潤熱帯地域」としてユネスコの世界遺産に登録されており、世界最古とされる熱帯雨林で覆われています。また、同じく世界遺産のグレートバリアリーフに接しており、熱帯雨林と珊瑚礁が出会う場所として知られています。

Super Science

現地調査を自らが行き、創造性を刺激する。 宇和海での海洋調査実習



①海面を埋めるミズクラゲの集団
②船上でクラゲを観察する学生
③伊予灘で遭遇したイルカの群



1・2 回生が沿岸環境科学研究センターの調査船「いさな(勇魚)」に乗船し、愛媛県南西部の宇和海で大量発生しているミズクラゲの調査を行いました。数か所の海域で、ミズクラゲの鉛直分布を把握するための水中ビデオ観測や、プランクトンネットによるサンプリング等を実施しました。帰りの伊予灘では、50~60 頭のイルカの群れに会い、数頭のイルカが同時にジャンプを繰り返す様子を近距離から観察しました。

関連分野の最先端研究の現場に接する。 早期の海外調査経験



①マラリア治療施設(タイ)
②環境試料の採取(ベトナム)
③ニワトリの内臓を採取(インドネシア)



「理数学生応援プロジェクト」の採択により、学生が海外調査に同行することが可能になりました。この 2 年間で、インドネシア、タイ、ベトナムに合わせて 4 名の学生を派遣しました。インドネシアでは、ゴミ集積地の土壌や滲出水、ニワトリの血液や内臓等を採取しました。タイでは、マラリアワクチンの開発を進めるため、診療所を訪問したり、媒介蚊を用いた実験を行ったりしました。ベトナムでは、電子・電気機器廃棄物のリサイクル処理に伴う汚染等を調査するため、環境試料を採取するなどしました。

※理数学生応援プロジェクト

将来有為な科学技術関係人材を育成するため、理系学部を置く大学において、1)入試等選抜方法の開発・実践、2)教育プログラムの開発・実践、3)意欲・能力を伸ばす工夫した取組等、理数分野に関して強い学習意欲を持つ学生の意欲・能力をさらに伸ばすことに重点を置いた取り組みを行うものです。愛媛大学が採択された平成 20 年度には、29 大学から応募があり、外部有識者による「理数学生応援プロジェクト」企画評価委員会が審査した結果、本学など 5 大学が選ばれました。
プロジェクト実施期間は 4 年間です。